

多摩川上流・本仁田山の完新世地すべり堆積物

Early Holocene landslide deposits found from Mount Honita, the upper Tama River basin, west of Tokyo

*苅谷 愛彦¹、澤部 孝一郎²

*Yoshihiko Kariya¹, Koichiro Sawabe²

1. 専修大学文学部環境地理学科、2. 国土防災技術

1. Department of Environmental Geography, Senshu University, 2. Japan Conservation Engineers

多摩川上流地域は付加体堆積岩類から成り、中・小規模の地すべり地が随所に発達する。本研究では、東京都奥多摩町本仁田山山頂の北東約1.4kmの谷底（北緯35度50分17秒，東経139度6分50秒，標高710 m）に定置する地すべり堆積物から2点の材化石を得て、それらの最外部分の¹⁴C年代を測定した。この結果、試料は10250-10189 cal BPおよび10150-10057/10042-9987/9959-9704 cal BPを示した。いずれもOxCal4.3とIntCal13による2 σ 年代である。これらの年代値より、この事例では完新世初頭に地すべりが発生したと判断される。これまで指摘されてきたように、この時代の多雨化と河床高度の低下が相まって、多摩川上流で地すべりが増加した可能性がある。年代の面では、近接する立川断層帯の最新古地震イベントとは直接結びつかない。

キーワード：奥多摩、14C年代、斜面物質移動、地すべり

Keywords: Upper Tama River basin, 14C ages, Mass movement, Landslide

